



春のオススメ本紹介

YA担当より

少しずつ暖かくなり、春が近づいてきていますね。
春は出会いの季節。YAコーナーでは、みなさんと新しい本との出会いを
応援しています。あなたにぴったりの1冊を探してみませんか。



①

「白い花びら」
やえがし なおこ／文
佐竹 美保／絵
岩崎書店
YA書架 Eサ



「恐れ、親しみ、木にまるで心があるかのように感じていたのは遠い昔、それでも私は、再び空想の世界に生きて、彼らと語ってみたいと願っているのかもしれない。」

春の山にひっそりと咲く桜の木に着想を得たという、こちらの一冊。林の中で少年は不思議な少女と出会います。自然の中で遊んでいた子どもの頃を思い出させてくれるような、幻想的なお話です。

あなたは桜の木を見て、何を感じるでしょうか。この絵本を読んだ後には、違った景色が見えてくるかもしれません。



②

「デニムさん 気仙沼・オイカワデニムが作る復興のジーンズ」

今関 信子／文
佼成出版社
YA書架 589イ



これは、福島県気仙沼市にある縫製工場の話です。呉服店からジーンズの縫製工場へ経営を転換し、培った確かな技術を武器にメーカーの下請けから自社ブランドを立ち上げました。社長である夫の死、バブル崩壊による経営危機、東日本大震災、くじけそうになりながらも知恵と工夫と、何よりも家族や社員・地域の人たちへの熱い思いで乗り越えて来ました。「オイカワデニム」は今、地域の誇りです。生きているからこそ何度でも立ち上げられる、勇気をもらえる一冊です。



③

「はなの街オペラ」

森川 成美／作
くもん出版
YA書架 913モ



主人公は14歳の神谷はな。今から100年ほど前の大正時代が舞台です。家族と離れて、奉公にでるために東京にきたのですが、思いがけず歌のレッスンを受けることになります。

はなは、歌に助けられ、次第に「オペラ」に魅せられていくようになります。奉公先で働きながら、新たな出会いと襲い来る数々の苦難に心を痛めながら、歌と芝居とともに生きていく成長の物語です。



④

「ラスト・フレンズ

わたしたちの最後の13日間」
ヤスミン・ラーマン／作
代田 亜香子／訳
静山社
YA書架 933ラ



誰にも言えない思いを抱えた3人の少女が出会ったのは、自殺願望者のためのマッチングサイトだった。

サイトから届く、死ぬ方法や決行日、それまでにしておくことなどの指示に従い準備を進めていく3人だが、いつの間にか自分を隠さず話せる相手となり友情が生まれる。

そしていつしか、本当は死ぬ必要がないのではないかと思いはじめ、サイトからの指示は止まらない・・・。

サスペンス・ミステリーそして心温まる青春小説。

YAとは…ヤングアダルトの略で、「子どもでも大人でもない世代」のこと。13歳から19歳くらいが主な対象です。

